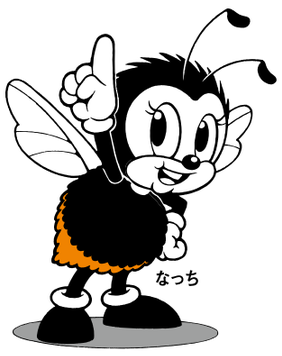
お、良く働く! ナチュポール®

トマト農家の皆様とともに、いよいよこの秋30周年



トマトの受粉にマルハナバチ

受粉用在来種 クロマルハナバチ※1 ナチュポール®・ブラック ミニポール®・ブラック

受粉用セイヨウオオマルハナバチ※2 ナチュポール®

※1 クロマルハナバチは北海道ではご利用いただけません ※2 セイヨウオオマルハナバチの利用には外来生物法に基づく許可が必要です

UPL OpenAg™ アリスタ ライフサイエンスは UPLグループの一員です

ナチュポールの詳しい説明はWEBへ ナチュポール トマト 検索

アリスタライフサイエンス株式会社
〒104-6591 東京都中央区明石町8-1
TEL 03-3547-4415 FAX 03-3547-4695

ハウス内循環扇 風来望(ふうらいぼう)シリーズ

風速到達距離※ 風来望Ⅱ 45m | 風来望ジュニア 25m | 風来望POWER 57m

※60Hzの場合

オールステンレス ※羽根はアルミになります。
風来望Ⅱ
風来望POWER

エポキシ粉体塗装
風来望ジュニア

風来望の特長
1 熱に強く、錆びに強い、安心設計!!
2 より静かに・より柔らかな風
3 軽量・簡単脱着

各種制御盤
タイマー式・5段風速切替付き・温度センサー付き
※加温機との連動運転にも対応可能です。
※お客様のご要望に合わせて、特注型も製造致します。

日農工業株式会社
〒818-0067 福岡県筑紫野市大字俗明院10-1
TEL／092-929-3981 FAX／092-929-3979
URL／https://www.nichinou.com
E-mail／info@nichinou.com

ビニールハウス 谷・サイド 自動開閉装置

手動から自動制御へ 愛菜くん らくらく開閉

側面換気(サイド)モーター

谷換気モーター

※カーテンモーターもあります

愛菜くんの特長
1 国産モーターを使用
2 力強く、故障しにくい!!
3 制御盤は簡単操作から高機能制御まで豊富なバリエーションを用意

詳しくはHPをご覧ください

JA部会アンケート

[冬春取りトマト特集号]

アンケート実施要領

調査対象 農水省の統計により、2019年産の冬春トマトについて、作付面積が15㌶以上の市町村を地盤とする全国のJA

調査期間 2021年4月下旬～5月下旬

調査方法 メール、ファクスでアンケート用紙を送付

※掲載内容は返信のあったメール、ファクスに加えて、一部聞き取りなどで補足。自由記述部分は一部要約
※自由記述部分の設問は、①前作での良かった点、または課題(収量、品質、販売など)②次作での対応策 ③産地PR・その他 ※前作の期間は2021年の冬春、次作は2022年の冬春 ※「ー」は無回答

北海道 JAびらとり

びらとり野菜生産振興会トマト・胡瓜部会 [10㌃収量平均]11㌧

構成員:151人		前作	次作
作付面積	全体	43.7㌶	43.5㌶
	大玉	43.7㌶	43.5㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		桃太郎ネクスト 36.4㌶	桃太郎ネクスト 38.0㌶
品種 2位		CF桃太郎ファイト 3.8㌶	TTM-160 4.0㌶
品種 3位		TTM-160 3.5㌶	CF桃太郎ファイト 1.5㌶
販売数量		12000㌧ (うち冬春 4857㌧)	12000㌧ (うち冬春 4800㌧)
販売金額		42億円 (うち冬春 17億円)	42億円 (うち冬春 17億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 春先から天候も良く生育も順調に進み安定した出荷量を維持した。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより農産物が売れるのか、経験したことのない不安を抱えてのスタートとなったが、コロナ禍に不要不急の移動規制や飲食店の時短営業などから想定外に量販店への内食需要が高まり、優位な単価で販売することができた。②次作 長期間の曇天・長雨による日照不足や、急激な高温に対応した肥培管理などにより品質維持に努め、収量を確保する事で価格競争に負けない出荷量を維持する。③その他 部会一丸となり、品質食味を守り消費者の方々においしい「びらとりトマト」を届けるために日々努力している。

群馬県 JAにったみどり

[10㌃収量平均]ー㌧

構成員:83人		前作	次作
作付面積	全体	23.5㌶	22.3㌶
	大玉	17.8㌶	16.8㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	5.7㌶	5.5㌶
品種 1位		麗容 8.7㌶	麗容 7.5㌶
品種 2位		TTM071 4.0㌶	TTM071 3.0㌶
品種 3位		TY千果 1.3㌶	TY千果 2.3㌶
販売数量		2513㌧ (うち冬春 ー㌧)	2289㌧ (うち冬春 ー㌧)
販売金額		8.9億円 (うち冬春 ー円)	8.7億円 (うち冬春 ー円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 ネコブセンチュウ対策として台木の「TTM-158」の導入が進んでいる。導入した生産者がセンチュウの被害が減ったことを実感しており、講習会でも業者を講師として招き、普及に努めた。②次作 大玉トマト「SC7-167」を試作している。現行品種との比較調査と生産者の意見確認などを継続的に行っていきたい。③その他 休日にも出荷対応をし、新鮮で安心・安全な野菜の出荷に努めている。

千葉県 JA長生

JA長生施設野菜部会 [10㌃収量平均]16㌧

構成員:117人		前作	次作
作付面積	全体	29.0㌶	28.5㌶
	大玉	29.0㌶	28.5㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		CF桃太郎はるか 7.0㌶	桃太郎ネクスト 10.0㌶
品種 2位		桃太郎ネクスト 7.0㌶	桃太郎ホープ 4.0㌶
品種 3位		麗容 6.0㌶	CF桃太郎はるか 3.5㌶
販売数量		2885㌧ (うち冬春 2000㌧)	4000㌧ (うち冬春 2800㌧)
販売金額		8.2億円 (うち冬春 5.5億円)	12億円 (うち冬春 8億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 出荷量では、台風により黄化葉巻病などの多発、生産者数の減少、高齢化による栽培面積の減少により、過去5年間で最も少なかった。販売においては、緊急事態宣言などコロナ禍の影響で外食産業などの需要が低迷したが、量販店など巣ごもり需要により好調であった。また新たな等階級を作り、販売単価の底上げを図った。②次作 黄化葉巻病対策として、町村と協力し防虫ネット(コンマ4)の展張を普及していく。また、耐病性品種の大型試作を引き続き実施。県内産地と協力し、統一スタンドパックを使用し千葉県産トマトをアピールしていく。また、長生トマトのPR動画を青年部と協力し作成、販売促進活動をしていく。③その他 長生トマトは、山と海に囲まれた温暖で自然豊かな地域で周年を通して出荷があり、「色良し、味良し、鮮度良し」をスローガンにいつまでも元気に、産地ブランドの認知をより一層、拡大していきたい。

栃木県 JA足利

トマト部 [10㌃収量平均]18.4㌧

構成員:48人		前作	次作
作付面積	全体	17.6㌶	17.6㌶
	大玉	17.6㌶	17.6㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		麗容 9.0㌶	かれん 8.0㌶
品種 2位		かれん 7.0㌶	麗容 8.0㌶
品種 3位		麗妃 1.0㌶	麗妃 1.0㌶
販売数量		3400㌧ (うち冬春 3400㌧)	3450㌧ (うち冬春 3450㌧)
販売金額		8億円 (うち冬春 8億円)	8億円 (うち冬春 8億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 黄化葉巻病対策として導入した「かれん」「麗妃」の秀品率が高く、地域全体で品質が向上した。暖候期においては食味も良く、軟果の発生や黄変果の発生が少ないため、各市場や販売店で高い評価を得られた。②次作 黄化葉巻病の発生が多いことが予想されるため、黄化葉巻病耐病性品種の積極的な導入とともに、こまめな防除を行うようにする。また、新品種の低温期の食味をさらに向上できるように施肥管理や温度管理について意識を高め、研究していく。③その他 新品種の導入も初年度から順調に進み、生産者の技術力の高さを発揮することができた。さらなる品質、食味の向上や収量の増加を目指し研さんを続けていきたい。

群馬県 JA佐波伊勢崎

JA佐波伊勢崎トマトセンター利用組合 [10㌃収量平均]13㌧

構成員:58人		前作	次作
作付面積	全体	14.1㌶	14.0㌶
	大玉	14.1㌶	14.0㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		麗妃 5.1㌶	麗妃 6.0㌶
品種 2位		桃太郎ホープ 2.9㌶	桃太郎ホープ 2.0㌶
品種 3位		桃太郎ネクスト 2.3㌶	桃太郎ネクスト 2.0㌶
販売数量		1737㌧ (うち冬春 1737㌧)	2000㌧ (うち冬春 2000㌧)
販売金額		4.3億円 (うち冬春 4.3億円)	5億円 (うち冬春 5億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 ー ②次作 各生産者の反収向上を目指し、品種の選定・定期的な講習会・個別的な栽培指導を行っていきたい。販売面では、引き続き契約取引の取扱高を日量出荷量の3割前後で取り組み、所得向上・価格の安定化を図りたい。③その他 本年度は群馬県内のトマト生産が盛んな5JAと協力し、冬春トマト産地間連携による合同消費宣伝などによる販売促進を行い、トマトを群馬の大きなコンテンツとして、共にPRしていきたい。

栃木県 JAしもつけ

JAしもつけトマト部会 [10㌃収量平均]20㌧

構成員:60人		前作	次作
作付面積	全体	27.0㌶	26.8㌶
	大玉	26.8㌶	26.7㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	0.2㌶	0.1㌶
品種 1位		マイロック 17.8㌶	マイロック 11.2㌶
品種 2位		有彩014 4.8㌶	かれん 7.5㌶
品種 3位		麗妃 1.8㌶	有彩014 4.8㌶
販売数量		5500㌧ (うち冬春 ー㌧)	5500㌧ (うち冬春 ー㌧)
販売金額		13億円 (うち冬春 ー円)	13.5億円 (うち冬春 ー円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 廃棚室やアルコールを使用した土壌還元消毒の定着と、RACコードを意識したローテーション防除により、前作より病害の発生が少なく、収量増を達成。課題としては、厳寒期の空洞果の発生や終盤に小玉割合が多いことがあげられる。②次作 空洞果対策としては、花質を向上させるため、「メリット赤」や「ホップアップ」を葉面散布し、リン、カリを補給。小玉対策に関しては、増核のタイミングや摘果など、管理面で対応。品種においては、今作の試験結果から、秀品率、収量性の良かったTY耐病性品種の「かれん」「麗妃」を拡大予定。③その他 栃木県内の冬春トマト産地として、販売数量・販売金額ともに県内シェア約25%を占める当部会は、昨年4つある部会が統合し新たなスタートを切った。今後は、部会の統一品種を選定していくとともに、部会全体のさらなるレベルアップを図り、近年の異常気象にも対応できるような栽培方法を確立し、高品質、高収量を目指す。その上で、高品質で消費者ニーズに応えた新鮮なトマトを首都圏中心に供給していきたい。

栃木県 JAおやま

JAおやま東部トマト部会 [10㌃収量平均]17㌧

構成員:65人		前作	次作
作付面積	全体	26.0㌶	24.0㌶
	大玉	26.0㌶	24.0㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		麗容 26.0㌶	麗容 19.0㌶
品種 2位		—	麗妃 5.0㌶
品種 3位		—	—
販売数量		3000㌧ (うち冬春 2880㌧)	3500㌧ (うち冬春 3400㌧)
販売金額		8億円 (うち冬春 7.7億円)	7.5億円 (うち冬春 7億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 秋の曇天の影響で出荷量が少なかったが品質は良く高値販売につながった。5、6月に黄変果の発生がみられ秀品率が大幅に下がった。②次作 黄化葉巻病対策として「麗妃」と「かれん」を試しつつ、土壌病害対策として複数の台木試験を行っていく。その他に労力の確保、従業員への指示・作型、施設に対応した栽培管理の徹底に努める。③その他 JAおやま東部トマト部会では、持続性の高いトマト栽培を目指しているため、栃木県からエコファーマーの認定を受けている。また、部会員全員が「安心安全は当たり前のこと」と認識し、生産履歴の記帳や残留農薬検査を行っている。小山市は日本でも日照時間が多い地域で、肥沃な大地と太陽の恵みを受け、トマトを栽培するに当たっては恵まれた環境である。

栃木県 JAかみつが

JAかみつがハウストマト部会 [10㌃収量平均]15㌧

構成員:42人		前作	次作
作付面積	全体	14.3㌶	14.0㌶
	大玉	14.3㌶	14.0㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		麗容 10.0㌶	麗容 10.6㌶
品種 2位		マイロック 3.0㌶	マイロック 3.0㌶
品種 3位		麗妃 0.5㌶	麗妃 0.2㌶
販売数量		1940㌧ (うち冬春 ー㌧)	2000㌧ (うち冬春 ー㌧)
販売金額		5.9億円 (うち冬春 ー円)	5.5億円 (うち冬春 ー円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 黄化葉巻病がひどかった生産者が黄化葉巻病耐病性の「麗妃」を使い、黄化葉巻病が減った点が良かった。しかし玉伸びが悪くなる生産者がいたので「麗妃」の生育方法が課題となった。②次作 黄化葉巻病に苦しんでいる生産者が見受けられたので、根絶するために、今まで以上に作終了時のコナジラミ防除、蒸し込み作業の徹底を図る。またハウス周りの雑草を防除する。③その他 安定した出荷量と品質を心掛け、お客さまの要望を聞き入れどんなアイテムが良いのか考え、単価の上乗せを図っていきたい。後継者の多い地区なので若い人の考えを取り入れ部会を盛り上げていきたい。

栃木県 JAはが野

トマト部会 [10㌃収量平均]16㌧

構成員:39人		前作	次作
作付面積	全体	17.0㌶	16.6㌶
	大玉	17.0㌶	16.6㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		麗容 10.0㌶	麗容 9.0㌶
品種 2位		麗妃 1.7㌶	かれん 3.0㌶
品種 3位		かれん 1.5㌶	マイロック 1.0㌶
販売数量		2500㌧ (うち冬春 ー㌧)	2500㌧ (うち冬春 ー㌧)
販売金額		7.5億円 (うち冬春 ー円)	7.5億円 (うち冬春 ー円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 ここ数年被害が多発しているコナジラミ類による黄化葉巻病対策として、0.3㍉目合いへの防虫ネットの切り替えや耐病性品種の導入により、全体的に被害は前年より減少傾向であった。品質面では、例年より小玉傾向で、空洞乱形果の発生が長期間続いた。販売面では、コロナ禍による業務需要減少からスタンドパックを中心としたアイテムを増量するなどし、単価の底支えを図った。②次作 黄化葉巻病根絶のため作終了時の蒸し込み作業によるコナジラミ防除の徹底、また作開始前に防虫ネットに破れがないか点検するなど作業工程管理の構築を図り、安定生産に向けた栽培技術の向上を目指す。また、販売面においては、生産者・販売先との情報共有を迅速に行い、出荷数量予測の精度を高めることなどによって有利販売につなげる。③その他 農薬安全使用講習会、残留農薬検査、防除日誌記帳・点検の徹底をしており、"安全で安心なトマト"の生産に全部会員一丸となって努めている。マーケットインとプロダクトアウトのバランスのとれた販売を引き続き目指していきたい。

北海道 JAしずない

静内ミニトマト部会 [10㌃収量平均]4.1㌧

構成員:45人		前作	次作
作付面積	全体	30.0㌶(うち冬春9.2㌶)	30.8㌶(うち冬春10.0㌶)
	大玉	—	—
	ミディ	—	—
	ミニ	30.0㌶(うち冬春9.2㌶)	30.8㌶(うち冬春10.0㌶)
品種 1位		キャロル10 30.0㌶(うち冬春9.2㌶)	キャロル10 30.8㌶(うち冬春10.0㌶)
品種 2位		—	—
品種 3位		—	—
販売数量		1244㌧ (うち冬春 334㌧)	1310㌧ (うち冬春 365㌧)
販売金額		8.3億円 (うち冬春 2億円)	9億300万円 (うち冬春 2.2億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 冬期間を通して、降雪量が少なく、土壌水分も不足気味であったことから、灌水(かんすい)量の調整も難しく、好天の影響もあり玉肥大が進む前に着色が進んだことで、全体的に小玉傾向で推移した。そのため、正品の出荷量が伸びず前年と比較しても収量減となった。販売面では、5月の販売環境が思わしくなく苦戦した。②次作 天候不順による生育障害や夏場の高温による花飛びが懸念されるため、部会で定めるローテーション防除の再確認や病害を未然に抑えるための巡回指導を行い収量確保に努める。販売面では、生産者の圃場(ほじょう)段階と選果施設での選果基準を統一し、部会(産地)としての品質を向上し、市場・消費者の要望に応えられるよう努める。③その他 冬は比較的暖かく、夏冷涼な気候性を生かし、5月初旬～11月まで4作型の体系で長期出荷が可能となっている。また、部会員一丸となり、「安全・安心な『太陽の瞳』を消費者の食卓へ」を合言葉に、日々努力している。

栃木県 JAうつのみや

JAうつのみやトマト専門部(春トマトグループ) [10㌃収量平均]11㌧

構成員:71人		前作	次作
作付面積	全体	17.5㌶	17.0㌶
	大玉	17.5㌶	17.0㌶
	ミディ	—	—
	ミニ	—	—
品種 1位		CF桃太郎はるか 4.6㌶	桃太郎ホープ 5.1㌶
品種 2位		桃太郎ネクスト 3.7㌶	CF桃太郎はるか 3.4㌶
品種 3位		麗容 3.1㌶	麗容 2.9㌶
販売数量		3604㌧ (うち冬春 1757㌧)	4000㌧ (うち冬春 1800㌧)
販売金額		10.3億円 (うち冬春 4.8億円)	10億円 (うち冬春 4.1億円)

前作の課題と次作の対策など ①前作 黄化葉巻病対策として「桃太郎ホープ」の作付けが増えた。品質については、今までの桃太郎系に比べ後半まで階級の大きい果実がとれるようになった。しかし、管内では黄化葉巻病の発生地域および圃場(ほじょう)内での発生株数が増加しており、耐病性品種導入だけでなく物理的防除対策も必要。②次作 黄化葉巻病対策として耐病性品種の導入を行うだけでなく、トマト専門部で防虫ネットの共同購入を実施し、生産者費用負担の軽減に取り組み、防虫ネットの導入を図った。また、コロナ禍で量販店などでの販促活動が思うようにできない中、産地PR映像の作成を行い店頭での産地PRに努めた。③その他 現在、冬から春にかけて、トマトについては供給バランスが崩れ、非常に厳しい販売状況となっている。JAや産地単位ではなく、全国の主要トマト産地で連携し対策を講じなければならないと考える。

＊株元灌注の場合は作物体になるべく薬液がかからないよう処理してください。

すばやく根から吸収される苗灌注1回で、
速効食害停止&約1ヶ月残効!
悪い虫をつけさせない。

特長1 卓効でおなじみのジアミド系有効成分シアントラニリプロール(通称:サイアジピル®)を、ぜいたくに18.7%配合!

特長2 まとめて簡単&手間いらずの灌注処理で、撒いたそばから食害を停止させる速効性!

特長3 幅広い難防除・抵抗性・重要害虫に有効! 約3～4週間の長い残効性!

特長4 発売以来、薬害事例ゼロ! マルハナバチ、天敵にも高い安全性!

主な適用害虫

野菜灌注用殺虫剤
ベリマーク® SC

powered by CYAZYPYR® ACTIVE INGREDIENT

ジアミド剤のプロ FMCの卓効成分
シアントラニリプロール(通称:サイアジピル®)を、18.7%高配合!

薬害事例ゼロ!

ご使用にあたっては製品ラベルをよく読み、適切にお使いください。 農林水産省登録:第24090号(ベリマークSC)、第23556号(デュポンベリマークSC)

ベリマークSC協議会 | クミアイ化学工業株式会社／日本曹達株式会社／丸和バイオケミカル株式会社(五十音順)

事務局:エフエムシー・ケミカルズ株式会社 www.fmc-Japan.com

©2021 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

製品情報はこちらから➡